

伊豆と静岡をつなぐ黄金の海路 駿河湾フェリー

静岡

静岡市の清水港と西伊豆の土肥港を結ぶ駿河湾フェリー。清水側の乗り場が移転して2025年10月で半年を迎えます。現在の乗船場である江尻埠頭はJR清水駅から徒歩3分であるうえ、隣接する「清水魚市場 河岸の市 いちば館」も同時にリニューアルされ、利便性が飛躍的に向上しました。船上からは海岸線から頂上に至るまでの雄大な富士山を眺められることでも人気がありますが、利便性も向上し「伊豆が近くなった」と好評です。

ところでこの駿河湾フェリーの航路は、静岡市と伊豆半島を結ぶルートとして静岡県道223号清水港土肥線に認定されています。2013年に富士山がユネスコの世界文化遺産に登録されたタイミングで「223(ふじさん)号」を付与されました。国内にはフェリーなどの海上の路線が国道や県道に指定されている例はほかにもありますが、静岡県道223号線は海上県道の中で距離が一番長くなっています。

また2023年には静岡県の土肥金山から山梨県の湯之奥金山、長野県の高森金山を経て新潟県の佐渡金山に向かう陸路と海路を「黄金KAIDO」と命名し、4県が協力して地域の観光を官民一体になって促進するプロジェクトが始まりました。駿河湾フェリーは「黄金KAIDO」では最初の海路の部分を担っていますが、江戸時代には土肥金山で採掘された金をほぼ同じ海路で駿府に運んでいたというご縁もあります。

現在、駿河湾フェリーの船体は「黄金KAIDOプロジェクト」にちなんで金色に塗装されるとともに、船腹には「GOLD ROAD」の文字も入り、船首には徳川家の家紋「三つ葉葵」の旗も翻っています。船内に入ると、1階の売店には金のグッズが並び、休憩スペースは金をあしらった豪華なデザインになっています。2階には特別室オーシャンルームがあり、前方に設置されたリクライニングシートなどからは大きな窓越しに外の景色を一望できます。3階にはさらなる高級感が漂う「貸切特別室(定員8名)」もあり、プライベートデッキを備えた船室で特別な時間を過ごせるほか、お食事付きのプレミアム・ラウンジプランも用意されています。

江戸時代の黄金ルートに想いを馳せながら、特別な乗船体験をしてみたいかがでしょうか。



フェリーの船体。黄金KAIDOにちなんで、船体には「GOLD ROAD」の文字が入り、船首には三つ葉葵の旗が掲げられている



県道223(ふじさん)号線の標識。駿河湾フェリーの航路は静岡県道223号清水港土肥線に認定されている



船内1階の休憩場所は、黄金KAIDOにちなんで金をあしらった豪華なデザインになっている



静岡県の土肥金山から途中2か所の金山を経て新潟県の佐渡金山へ至る黄金KAIDO。駿河湾フェリーは黄金KAIDOの最初の海路の部分を担う